

# 校内研修計画

甲州市立井尻小学校

## 1. 学校課題

- (1) 「確かな学力」育む授業づくり・授業改善
- (2) 「確かな学力」を支える学級づくり・集団づくり
- (3) 保護者、地域住民と連携した「確かな学力」の育成

## 2. 研究主題

『意欲的に取り組み、自ら追求する児童の育成』

～思考力・判断力・表現力を高める授業改善を通して～

## 3. 主題設定の理由

PISA など各種国際学力調査の結果から、日本の子ども達の課題が見えてくる。それは、「知識・技能の習得には一定の成果が認められるが、それらを使って考える力や考えたことを表現する力が十分ではない。」ということである。また、昨年度の全国学力調査において甲州市では国語 A において 17 問中 15 問が、正答率 70%を上回っているのに対し、国語 B では正答率 70%を上回っているのは 11 問中 2 問に過ぎなかった。これは、算数科に関しても同じような傾向である。

これと同様のことが本校の児童にもあてはまり、各種調査において知識や技能に関しては一定の成果が見られるが、基礎的・基本的事項に比べ、それらを活用する力が弱かった。

本校では昨年度まで甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携により「Q-U」「NRT」を活用した「学級集団づくり」に重点を置いた研究を取り入れた。その結果、各学年において学級満足群の児童の割合が増加し、本年は児童が教室において学び合うことのできる素地ができていると言える。

そこで、本年度は「Q-U」「NRT」を活用しながらの学級集団づくりをベースに、学級満足群の児童の割合をさらに高めていく。そして、その集団の中で児童が自ら「考え」「判断し」「表現する」ことができるような授業改善に取り組んでいく必要があると考え主題・副主題とした。

## 4. 研究の内容と方法

### 研究の内容

- (1) 子どもたちの実態により、「身に着けさせたい力」を明らかにし思考力・判断力・表現力を高める授業改善に取り組む。
- (2) 一人一実践を公開し合う中で、授業力を高める。

### 研究の方法

- (1) テーマに関わった理論や先行研究を学ぶ。
- (2) 低・高の 2 部会で、授業づくりと授業改善に取り組む。
- (3) 一人一実践を行い、交流することから共通理解を図る。

## 5. 校内研修計画

月	日	校内研究の内容	T・C	組織
4	1 7	<b>第 1 回校内研</b> 今年度の研究の方向性について ○平成 25 年度校内研究基調提案（研究主任）		全体会
4	2 4	<b>第 2 回校内研</b> ・理論研究 ・ブロック長の決定 ・授業者決定		全体会 ブロック
5	2 2	<b>第 3 回校内研</b> ○ブロックの研究テーマ，身に着けさせたい力，計画など		ブロック
5	2 9	<b>第 4 回校内研（ブロック）</b> ○実態把握，身に着けさせたい力について ○指導案作成		ブロック
6	1 2	<b>第 5 回校内研</b> ○指導案検討（授業研究Ⅰ）		全体
6	2 6	<b>第 6 回校内研</b> ○授業研究Ⅰ（全体 1）○授業後研究会	○	全体
8	1 2	<b>第 7 回校内研</b> 学習会「 」先生（ ）	○	全体
8	2 0	<b>第 8 回校内研</b> ○教育課程の還流報告，Q-U の分析からの情報交換		全体
9	4	<b>第 9 回校内研</b> ○授業案作成		ブロック
9	1 1	<b>第 1 0 回校内研（ブロック）</b> ○授業案作成		ブロック
1 0	1 6	<b>第 1 1 回校内研</b> 指導案検討（授業研究Ⅱ）		全体
1 0	2 3	<b>第 1 2 回校内研</b> ○全国学力学習状況調査，NRT の分析結果の情報交換		全体
1 0	3 0	<b>第 1 3 回校内研</b> ○授業研究Ⅱ（全体 2）○授業後研究会	○	全体
1 1	6	<b>第 1 4 回校内研</b> ○ノートの活用について		全体
1 2	1 1	<b>第 1 5 回校内研</b> ○一人一実践のまとめ		ブロック
1	2 9	<b>第 1 6 回校内研</b> ○今年度の研究の成果と課題（ブロックとして）		ブロック
2	1 9	<b>第 1 7 回校内研</b> 今年度の研究の成果と課題，来年度の研究に向けて		全体
2	2 6	<b>第 1 8 回校内研</b> 今年度の研究の成果と課題		全体
3	5	<b>第 1 9 回校内研</b> 研究紀要作成		全体